



No.13

2011年 4月 1日発行

水辺のひらば



「私の加治川写真展」応募作品より(写真:白瀬 久恭)



「私の加治川写真展」応募作品より(写真:高澤 昭司)

の気持ちも、花見
と思うと、花見
見物などとい
いていら
れませんが、
加治川的美
しい桜並木
は、今年もま
た、春の訪れ
を告げます。

大正天皇のご即位と加治川の大改修
工事の竣工を記念して、加治川の両岸
に6,000本の桜が植えられたのは
大正3年のこと。その桜がやがて長堤
十里世界一と謳われ、昭和41年・42年の
大水害が起きるまでは「加治川の桜見
物」は大いに賑わいました。臨時列車が
加治川堤に停車し、川には花見舟、臨時
店舗の出店、芸者衆、そして歌に酒。そ
んな様子は映画の一場面にも登場した
ほどです。
今の桜は水害後の加治川堤の桜の復
元を願い、平成元年から植樹したもの
です。加治川の流れに沿って咲く春の
彩り、その借景として凛とした姿を見
せる飯豊の残雪、桜並木と川と白い峰、
春の景勝地です。
今春、思いもしなかった東日本大震
災が日本を襲いました。被災された人
の気持ちを、花見
と思うと、花見
見物などとい
いていら
れませんが、
加治川的美
しい桜並木
は、今年もま
た、春の訪れ
を告げます。

川のある風景

く加治川の桜く

新発田の自然

「焼峰山」

新発田市街から南東方向、二王子山麓
の右側に焼峰山とその稜線が見えます。
東赤谷の滝谷集落から林道の奥に進み、
数台の駐車スペースから少し戻ったとこ
ろに焼峰山の登山口があります。ここか
ら杉林の木立を抜けて、比較的ゆるい山
道を歩いて1時間で、中間点の「うぐいす
だいら」に着きます。南側に展望があり、
先へ進むと焼峰山の頂上が少し見えてき
ます。

ここから先は高度が上がり、岩場や鎖
場も頻りに現れて汗を搾られます。遭難
碑のある小ピークを過ぎて最後の急な登
りを越せば1,085mの山頂に到着で
す。

全方位が見渡せて、西に内ノ倉ダム湖
や新発田市街と日本海が、東には飯豊の

山々が続きます。南は相倉山や蒜場山の
急峻が間近に見えますし、北側の谷間に
は内ノ倉川に続く「小戸の七滝」もはつき
り見えます。

山頂広場から10分ほど東に、小高い別
のピークがあって、切れ込んだやせ尾根
を注意して進むと、山頂より16m高い「焼
峰の頭」に着きます。ここでも360度の
展望が楽しめます。

変化に富ん
だ登山道から
は、初夏にシ
ラネアオイや
イワウチワな
どの高山植物
を、秋には切
れ込んだ谷間
を彩る紅葉を
楽しむことが
出来る静かな
山域です。



こんな場所発見 大友稲荷神社 奥の院

初詣などで神社仏閣と並び、伏見稲
荷、住吉稲荷など、稲荷神社もよくニュー
スに流れます。それらの神社と比べれば
規模は小さいですが、新発田の有名どこ
ろの稲荷神社といえば、大友稲荷です。

大友稲荷は名前のとおり市内大友にあ
ります。神社の創建は慶長年間(1249~
1956)で、この周辺の領主だった大友実秀
が、東泉寺の鎮守社として京都にある伏
見稲荷神社の分霊を祀ったのが始まりと
伝えられています。

家内安全、商売繁盛、諸願成就に御利
益があるとして信仰を広め、県内外からも
多くの参拝者が訪れます。境内には奉納
された鳥居や小祠、石祠などであふれ、あ
る種の緊張感のある空間になっています。

毎年3月には初午が開催されます。今
年の初午は3月4日で、あいにくの雪模様
でしたが、大勢の参拝者が訪れていまし
た。昔の初午の日には、観光バスが何台
も列を作っていたという話も聞きます。今
は昔ほどの賑わいはないもののたくさん
並んだ鳥居は圧巻。新発田のパワースポ
ットとなっています。



奉納された鳥居が静かに立ち並ぶ

くらしの方言 その7

「がっとな」

動作を表すことばもいろいろあります。
幼い兄弟がなにやら遊んでいると...

弟 「おにいちゃんの《ロボライダー》
貸してー。」

兄 「やだっ！自分の使えばー。」

弟 「いろいろお、貸してよー！」
(弟がロボライダーを引っ張る。)

兄 「やめれー、引っ張るなつてー。」

父 「こら！二人とも、がっとなにすつと
壊れるぞー！」

兄弟「何？がっとなつて...」

※「がっとな」物を粗暴に扱う状態を「がっとなに
する」といいます。性格を表すことにも使われ、
「がっとな人」とは行動が荒っぽい人の意がっ
とな、あたりが語源でしょうか。

NPO法人加治川ネット21の紹介

設立 1996年11月。2003年5月法人化
活動目的 21世紀を生きる子供たちにより
環境(自然、伝統、文化)を残し、
伝えたい。
主な活動 水と親しむ水辺の大楽校、生き
物調査、小学校環境学習支援、川
辺や町並み散策、手前みそ作り、
シンポジウム開催
受賞歴 環境大臣表彰、新潟県環境賞、
「日本の水をきれいにする会」
会長表彰ほか
年会費 法人会員10,000円、個人会員2,000円

《編集後記》

▼東日本大震災は、誰もが予想できな
かった大きな被害をもたらしました。新
発田市内にもカルチャーセンターやサン
ビレッジの避難所はもとより、一般家庭
などに700人以上の人たちが避難して
来たそうです。

加治川ネットでは、避難してきた人たち
も一緒に何かできないかと考え、3月19日
に豚汁の炊き出しを行いました。ネット会
員、敬和学園大学の学生やネットの活動に
共感してくださった人たち、そして被災者
も加わり、わいわいと材料を刻んだり煮込
んだり。出来上がった温かい豚汁は、皆さ
んに喜んでいただき、心も体も「ほっとし
た時間を提供できました。」

今回の豚汁づくりは大成功。でもそれ
だけで終わらせる訳にはいきません。第
2弾の炊き出しはもちろろん、今加治川
ネットができることは何なのか、それら
を考え、順次実行していくことにしてい
ます。

理事長に就任して

新理事長あいさつ



NPO法人
加治川ネット21
渡辺 利道

はじめに、3月に起きた東日本大震災で被災された皆様、関係の皆様にお見舞い申し上げます。亡くなられた皆様のご冥福と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。「将来を担う子どもたちによりよい環境を引き継ぎたい」「子どもたちに川との

付き合い方を教えた」「様々な活動をしている団体同士の橋渡しをして、地域を明るく元気にしたい」などを目的として産声を上げた「加治川ネット21」も、発足して15年となりました。

この度、設立以来、常に会を代表する立役者として活躍してきた若月理事長に代わり、私が理事長を引き受けることとなりました。

私たちを取り巻く世界はめまぐるしく変化してきておりますが、活動の原点である「将来を担う子どもたちのために」をモットーに、自分たちで出来ることを背伸びせずに行っていくことを考えています。今までも同様の変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ができるのか。食べられるのは秋になります。今から楽しみます。味噌ができる秋には、出来た味噌を使った催しを企画する予定です。

(文責 渡辺利道)

環境学習レポート

小学生による 環境学習発表会

平成22年11月14日の日曜日、新発田市、聖籠町の小学生による「環境学習発表会」が、新発田市生涯学習センターで開催されました。加治川ネット21のNPO設立5周年の記念事業として、1回限りの予定で開催した発表会も、多くの方に後押しされ、今回が4回目となりました。

先回は新型インフルエンザの影響で、直前に出場辞退を申し出た学校もありましたが、今年はエントリーした7校が元気に参加し、発表者の多い学校もあり、300人定員の会場は聴衆が入りきれずに、ロビーまで椅子を並べなければならぬほどの盛況でした。

今年の発表内容としては何かを作るのではなく、調査をして学ぶという取り組みが目立ちました。発表の方法も、二ユーラス風に仕立て「現場からの中継」で繋ぐ演出や、30人前後で役割分担をしての発表など、それぞれ工夫し、熱のこもった発表になっていました。

同じ「環境学習」でも、何をテーマにするか、どのような視点や活動方法にするかの違いが、他校の発表を見たり聞いたりする中で、日ごろの勉強とは違った刺激になっていくようです。

同時開催のパネル展もまた好評。学習センターロビーやジャスコ新発田店などでの展示でしたが、21校が参加し、掲示に工夫を凝らしたものがよく調査、観察した

宝物みつつけた

溝口秀勝君入封 三百年記念碑



「溝口秀勝君入封三百年記念碑」は新発田総鎮守「諏訪神社」の境内にあります。碑の裏側には「従一位公爵徳川慶喜」と記されています。

幕末、天竺側についていた新発田藩の記念碑を徳川家の方に書いていただくなんて、ちょっと考えられない気もしますが、新発田藩十三代藩主溝口直亮に與入れた須美子さんは、徳川家から嫁いだ方で、母方の祖父が、なんと徳川慶喜ご本人であるとのこと。確かにはわかりませんが、きつと須美子さんの口添えがあつて実現したものと推察されます。

さて、諏訪神社境内にはこの他にもたくさん石碑があります。東公園は大倉喜八郎氏から寄贈されたものというのには有名な話ですが、諏訪神社境内の鳥居にも「男爵大倉喜八郎」の文字が見られます。皆さんもぜひ一度、諏訪神社の境内をゆっくりと散策してみてください。いかがでしょうか。きつと新しい発見があると思いますよ。

写真は、県立新発田病院移転前、変わりゆく新発田駅前風景を写真に残そうと、当会有志が駅前を散策した時のものです。

食文化探求

秋にはおいしい味噌が 手前味噌の会の開催

3月6日(日)、午後2時から、当会主催の第7回手前味噌の会が、聖籠中学校地域交流棟で開催されました。

会場となった聖籠中学校は、県内でも唯一の教科センター方式による授業を行っている他、町民全体で子どもたちを育てようとしている学校です。地域の人の交流を進めるため、その拠点施設として地域で運営する地域交流棟が学校に併設されています。味噌作りの楽しさを新発田市以外の人にも知ってほしい、そしてこの中学校のことも多くの人に知ってもらいたいとの思いも込めて今回の会場としました。



親子で楽しく味噌作り

ことが表れているものなどが並んでいました。調査して得られたこと、気づいたことから、実践へ。そういう気持ちをこれからも持ち続けてほしいと思います。



工夫をこらした発表もいっぱい

2011年総会

記念講演は 自然にやさしい有機農法

毎年総会に合わせて開催する記念講演会。今年の講師は有機農産物認証機関(国指定)NPO法人「赤とんぼ」の判定委員長の伊藤市平氏。演題は「自然にやさしい

有機農法」自然との共生を目指して、で、会場には会員も含め約40人が参加し、昔の稲作から、農薬、有機農法などの話を聞きました。

昔の稲作は、すべてが手作業で、今とは比較にならないほど、時間と人手が掛かりました。その時間と手間を減らすため、耕起や田植え、稲刈りは機械化され、機械化の難しい除草は農薬が主役となりました。

さまざまな農薬が使われ、生産量や労力は大きく改善されたものの、使用開始から20年以上も後、使われた農薬に問題があるという話がありました。その時は最良な方法であったとしても、後になって誤りであったという話はよくある話。誤りを見つけたとき、どう対処するかが大切で、加治川ネット21の活動に通じるものがあると思えました。

有機農法は、肥料の管理が難しく、健全な土作りがなされているかどうかが大変で、余剰窒素は作物を不健康にし、人体にも影響を及ぼすとのことでした。手間がかかる上に病気に弱い有機農法は、生産者と消費者との相互理解や協力関係の構築

が必要。有機農法に多くの賛同者や理解者が広がれば、環境保全にも大きく貢献できるものと思えました。

家庭でも、プランターで有機農法の試行も手軽に出来ること、落ち葉や籾殻やこめか等を適度に混ぜてやると良いとのアドバイスもありました。

学校・地域・NPO

連携に向けて情報交換

2月19日、新発田市生涯学習センターを会場に「あめつちの日に新発田」が開催されました。この事業は、学校と地域が協力して活動をしていくための情報交換会。当日は当会からの3人を含め、学校関係者、NPO、行政など約30人が参加しました。

事例発表は3団体。敬和学園大学は商店街の空き店舗を利用した「大学生によるカフェ運営」の話、ユール&ミールは主婦の小さな活動から今は市内の学校へと広がった食物残さを堆肥に変える活動、そしてユール&ミールの活動に関連し、藤塚小学校の先生が残さず分別の苦労や子供たち



お互いの連携方法を探って

の変化などを発表しました。その後は、4班に分かれてのグループワークでテーマは「学校とNPOが参加することできるもの」。テーマに沿って活発な意見の出たグループもあれば、それぞれの活動を発表し合い「こうやって情報交換することが大事だよ」とテーマは気にせず盛り上がるグループなどいろいろでした。

それぞれが連携するために、学校側が限られた時間の中で「支援ができる団体とどう出会うか、どう受け入れるか」も大きな課題のようです。

殿様街道てくてく旅

会津坂下から郡山へ

黒森峠を下って再び国道294号に合流し、今日の目的地である赤津の集落に到着。午後4時50分、辺りは少し暗くなってきた。

赤津の集落も昔の宿場の面影が残っており、情緒がある。村中をゆっくり歩きながら迎えの車を頼もうと、運転手の携帯に連絡するも、圏外のため連絡できない。今はどこでも携帯が通じるものと思っていたのに、未だにその恩恵に浴していない地域もあるのだと改めて実感した。

車を待っている間に中年の女性が「何をしているんですか」と尋ねてきた。「新発田から江戸まで歩いています。今日は会津坂下から歩いてきました」と答えると、「じゃあ水戸方面ですか」と言う。「いえ、水戸は通じません」と答えても、しつこく「水戸方面へ行くのか」と尋ねるので、仕方なく「水戸の方向に行きます」と答えると「がんばってください」と言い残して家に入ってしまった。皆で「いったい何が起きたのか」と顔を見合わせ苦笑する。

しばらく待つと、ようやく携帯が通じ、車が迎えに来る。何でも集落のはずれで待っていたとのこと。「なーんだそうだったんだ」である。

さて、一日目の行程を無事こなし、「三代」の海老名食堂に向かう。途中、旅の汗を流すため福良にあるサニランド湖南温泉という温泉福祉施設に立ち寄る。この施設は郡山市が運営しており、郡山市民で60歳以上は無料とのこと。おかげで、年寄りでも賑わっていた。市外の人でも入浴料230円と非常にリーズナブルなお勧めである。ただし、タオル・シャンプー類は持参必要。(次号に続く)

環境豆知識

飛散!ヒサン!花粉症

今年も花粉症の季節がやってきました。花粉症は、患者数が2,500万人ともいわれ、5人に1人が罹患する国民病になっています。

花粉症がこんなに有名になったのは、いつごろからでしょうか。

1963年に栃木県日光でスギ花粉症が報告されています。その後、70年代後半には、度々大飛散をもたらす患者数が増加しています。

わが国では、戦後の復興で大量伐採し荒廃した山の再生で、1950年代にスギを一斉に植林しました。スギが生長し花粉を飛散させるまでに、およそ30年。1980年代からの急激な患者増は、この影響ともいわれます。

国では無花粉のスギの品種を研究していますが、普及するまでには更に半世紀以上を要するでしょう。